

国分寺市委託事業

平成29年度 相談支援スキルアップ研修会 報告書
「地域移行支援 in 国分寺 ～私たちにできる具体的行動～」

日 時	平成29年4月14日(木)	場 所	国分寺障害者センター 2階多目的室
	午後2時～午後5時	主催	国分寺市障害者基幹相談支援センター

参加者：34名

〈参加者内訳〉

精神科病院	6名	根岸病院・斎藤病院・多摩済生病院・やさか記念病院・高月病院
相談支援事業者	7名	地域活動支援センター虹・相談支援事業所のぞみ・AnnBee こどもの発達センターつくしんぼ・地域活動支援センターつばさ
地域移行促進事業委託 事業者	3名	地域生活支援センタープラッツ・多摩在宅支援センター円
障害福祉サービス事業者	2名	さつき共同作業所・国分寺市障害者センター
地域包括支援センター	6名	国分寺地域包括支援センター こいがくぼ・ほんだ・ひかり・ひよし・なみき
行政	9名	多摩立川保健所・国分寺市生活福祉課・国分寺市障害福祉課 東京都福祉保健局生活福祉部保護課
基幹相談支援センター	1名	入間市基幹相談支援センター
参加者合計	34名	

(他、事務局4名)

講演 (45分間) *別紙講演内容資料参照

1. 「地域移行支援 in 国分寺～はらからの家福祉会の実践を交えて～」

講師：伊澤 雄一氏 社会福祉法人はらからの家福祉会 総合施設長
精神障害者地域移行促進事業コーディネーター

精神保健医療福祉にかかわる施策・制度の変遷の概要について、社会福祉法人はらからの家福祉会が受託している東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業について、はらからの家福祉会の実践経過及び活動内容、病院との関係づくり、ライフパートナー(LP)の実践活動、地域移行支援に関する連携・協働についての考え等の講演内容があり、地域移行支援への取り組みについて課題整理をする形でのご講演をいただいた。

2. 会場からの現状報告 (45分間)

多職種による連携体制や協働できる支援体制の構築のために、各機関の立場や現状及び支援の役割について共通認識の確立することが重要だと考え、関係機関間での情報共有を目的として、各分野の立場より地域移行支援における各機関における現状報告をいただいた。

① 精神科病院からの現状報告

(長期入院者の現状・病院の取り組み・感じている課題・国分寺に望むこと等)

報告者：斎藤病院 足立氏 (ソーシャルワーカー)

やさか記念病院 牟田氏 (ソーシャルワーカー)
多摩済生病院 尾花氏 (ソーシャルワーカー)
根岸病院 佐々木氏 (ソーシャルワーカー)

- ② 精神障害者地域移行促進事業コーディネーターからの現状報告
(感じている課題・効果的だと感じた連携・あると良い仕組み・国分寺に望むこと等)
報告者：多摩在宅支援センター 円 清水氏 (地域移行コーディネーター)
- ③ 障害福祉サービス事業所からの現状報告
さつき共同作業所における長期入院者の入院中からの通所受け入れの取り組み
報告者：さつき共同作業所 橋本氏 (サービス管理責任者)
- ④ 地域包括支援センターの取り組み
報告者：地域包括支援センターほんだ 山本氏 (社会福祉士)
- ⑤ 行政からのサービス及び制度説明
報告者：障害福祉課 桑野氏 (事業推進係長)
- ⑥ 精神科医療地域連携事業の紹介
報告者：高月病院 大西氏 (ソーシャルワーカー)

3. グループワーク (45分間) 6～7名×6グループ

今回の研修では、医療・福祉 (障害分野・高齢分野)・行政の各分野からの参加を得て、各グループの構成メンバーをバランスよく多分野多職種に振り分けることができた。そのため、グループワークメンバーを地域移行支援に向けてつくられた多職種チームと仮定してグループでの検討を進めた。
(グループワーク内容)

- ① 地域移行支援に引き寄せた形での自分たちの支援の強みの自己紹介 (グループワーク導入)
(それぞれの機関がもっている支援の強みの情報共有)
- ② 各グループで精神科病院から報告される長期入院者のケースをもとに、連携を意識して各機関の
できること等具体的行動を出し合う。
 - ・「各機関でできること」「今すぐできると思われること」を出し合う。
 - ・あったらいいなと思う社会資源や支援について、様々な角度からのプラスの知恵を出し合う。
 - 1～3グループ：長期入院者本人が高齢化しているケース
 - 4～6グループ：長期入院者だけでなく、家族の高齢化等により家族にも支援が必要なケース
- ③ 第1段階で出た意見を図式化して模造紙にまとめる (地域資源やネットワークの見える化)。

4. グループ発表及び総評 (20分間)

6グループのうち、2つのグループ (1グループと6グループ) の代表者 (相談支援専門員) より討議内容について発表してもらい情報共有をしたと同時に、全グループが図式化してまとめた模造紙を掲示する形で各グループでの討議内容を共有した。

講師の伊澤氏からの総評においては、地域移行支援は多職種によるネットワークが欠かせないことや、またその際には各機関が互いに手を伸ばしあって制度間及び機関間の隙間を埋めていく取り組み (ネットワークを編みこむ作業) が必要であり、「フットワーク」「ニットワーク」「ネットワーク」が支援においては重要であるとのまとめがあった。

5. まとめ

今回の研修は、精神科病院を含め、地域包括支援センター、相談支援事業者、障害福祉サービス事業所、行政、基幹相談支援センター等、と地域移行支援にかかわる多機関多職種が一同に顔を合わせて具体的な連携や支援の方法について検討するなかで、お互いの立場や支援の強みについても理解し、今後の実際の連携に活かしていくことができる連携の土台作りができた研修会となった。

今回の研修により、お互いに連携先としての認識はあっても実際に連絡を取り合ったことはなかった関係機関同士が顔の見える関係となり、分野を超えた地域のつながりができたことは大きな成果であると感じている。実際に、支援の可能性も含めた地域移行支援の導入過程における相談事に関するやりとりや、早期治療につなげる取り組みへの相談等について、今後も気軽に相談できる関係を築いていこうとする動きが参加者の間でなされていた。支援においてネットワークが軽いことは大変重要なことである。すぐに連絡ができる相談先があること、一緒に考えることができる関係者がいること、お互いの立場を理解したうえでお互いが少しずつ手を伸ばしあい、のりしろを増やして隙間（狭間）をなくしていくネットワークへの取り組みが、地域移行支援はもちろんのこと、今後の地域生活支援全体においても非常に重要となることが再認識された研修会となった。